

# 日常こそがアート

トライやるの「営みの森」の講義でインタビューさせていだいた藤井さんは、小2の頃、おとなしく引込み思案だったが、描いたり作ったりするのは好きだった。周りから褒められることが多く、図工の時間だけはヒーローになれたようだ。その背景があり、藤井さんはアートの世界に引き込まれていった。藤井さんは、アートは人と人を繋ぐツールだと考え、この講座を開いた。



## 自然は「生きる」原点

今回の講座は「営みの森」と題し、これは、日々の営みの元になっているのは、森や里山などの山の幸であり、山などの自然は「生きる」の原点、という意味をこめていいる。割りばしをカッターなどで切り目をつけて、木を再現し、それをたくさん集めて、森のようにしてつづいた完成した作品をみて、講座に参加した生徒たちの表情には、感動があふれていた。藤井さんは、アートは世界を救うことができる信じて、今日もアートを広げたい。



## 人を笑顔にする職業

11月25日浜脇中学校のトライやるウィークで芸能演劇の担当をして下さった松本ユキ子さんを楽しませたい。松本さんは元々ダンスが好きでそれが職業となりました。今では様々なジャンルので活動をしていきます。将来を担う子どもたち、自分を開き周りと自分を比べず、自分がおもしろい道を進むことが大切だとおっしゃっていました。けがで苦労したとき、取り頑張りました。

## ゲームの世界

11月25日浜脇中学校で行なわれた、トライやるウィークで興國吉岡高等学校の藤牧論史が主司した。藤牧さんは、ゲームが好きで、プログラミングの知識を得るために病院のIT会社に転職した。この仕事は、自分の思い通りにできなかったことで困ったこともあった。でも、好きなことをしたことで、自分も成長することができた。将来の職業に就きたい人は、コンピュータに興味がある人に向いている。

